



▲聖ヶ岩ビジターセンター前で式典に参加する登山者

権太倉山山開き
新緑を眺め登山を楽しむ

4月30日、権太倉山（標高976m）山開きが行われ、参加した登山者は、新緑の山を楽しみながら心地よい汗を流しました。
聖ヶ岩ビジターセンターで行われた式典には、ゲストとして世界最高峰エベレストを踏破したタレントのなすびさんが訪れ、参加者と共に安全を祈願しました。
下山後には、大信地域のご当地グルメ「聖ちゃんこ」が振舞われたほか、「大信こだま太鼓」による演奏や、なすびさんによる講演会が行われました。



▲寄贈式に出席した鈴木会長（中央）と市内中学校の代表生徒

白河RC新聞提供事業目録寄贈式
市内中学校に新聞提供

4月21日、市役所で白河ロータリークラブから市内中学校に新聞を提供する事業の寄贈式が行われました。この事業は、新聞を学習に役立ててほしいと、同クラブが創立60周年を記念して行うもので、中学3年生の全クラスに、福島民報の紙面を1年間提供します。
式には、各中学校の代表生徒8名が参加し、代表で白一中3年鈴木夢叶くんが同クラブ会長の鈴木茂久さんから目録を受け取りました。
鈴木君は、授業などでの新聞の活用を誓い、感謝の言葉を述べました。



▲本市産コシヒカリを手渡すキャンペーンクルー

みちのくの玄関口「白河」応援キャンペーン
食の魅力を全国に発信

5月1日から31日まで、日本航空（JAL）の協力により、東日本大震災からの復興支援として、羽田空港JAL国内線のラウンジで「みちのくの玄関口「白河」応援キャンペーン」が実施されました。
キャンペーン期間中は、特設ブースを訪れた方に、白河だるまの描かれた本市産コシヒカリ300gパックをプレゼントして、本市産米のおいしさを全国に発信しました。初日には圓谷副市長を先頭に、市のキャラバン隊が、本市の食の魅力や観光名所などを利用客にPRしました。



▲植樹する(左から)齋藤所長、鈴木市長、和知観光物産協会理事長

東北電力白河営業所「花いっぱい運動」
関の森公園に桜の苗木植樹

4月24日、関の森公園（旗宿）で桜の苗木寄贈式が行われました。東北電力白河営業所（齋藤祐悟所長）が展開する「花いっぱい運動」の一環として、昨年の城山公園に続き贈られたもので、紅枝垂桜11本が植樹されました。齋藤所長は、「将来たくさんのお花が咲くことを願っています」と話し、市長が「東北の玄関口にふさわしい花の森をつくってほしい」とお礼を述べました。
参加した同営業所と関連会社の社員、OBなど約40人が、桜の成長を願い、苗木を丁寧に植樹しました。



▲満開の菜の花畑を背景に大正琴を演奏する東琴の会

野出島の里菜の花まつり
満開の花が一面に咲く

5月4日、野出島地域活性化プロジェクトが栽培する菜の花畑（東下野出島）で「野出島の里菜の花まつり」が開催されました。
特設ステージでは、満開の菜の花を背景に、大正琴の演奏やよさこい演舞、フラダンスなどが披露されたほか、出店ブースでは、会場の菜の花から抽出した白河ブランド認証品の「なたね油」が販売されました。
また、同プロジェクトが栽培したそば粉を使った手打ちそばも振舞われ、多くの家族連れなどがイベントを楽しみました。



▲懐かしい雰囲気を出したちんどん屋さん

第9回大昭和まつり
懐かしい雰囲気を楽しむ

4月29日「昭和の日」、大工町と新蔵町周辺の通りを舞台に「第9回大昭和まつり」が開催されました。会場には、クラシックカーやデコトラ、懐かしい映画看板などが設置されたほか、出店ブースや、縁日・伝承あそびコーナーが設けられ、来場者は懐かしい昭和の雰囲気を楽しみました。
また、白河演劇塾団員が紙芝居を披露し、子どもたちの注目を集めていました。当日は、白三小鼓笛隊によるパレードも行われ、会場には大きな歓声が響きました。